

平成29年度地域包括支援センター事業評価  
⑭ 馬橋西地域包括支援センター

評価指標の定義

- 4: 大変よくできている
- 3: ある程度できている
- 2: あまりできていない
- 1: まったくできていない

松戸市  
平成30年7月

## 1. 組織／運営体制

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
①地域包括支援センター「事業計画」が適切に作成・実行されているか。		4	3.6		
評価の根拠	ア.「事業計画」に委託契約仕様書の内容は網羅されている／いない	いる			
	イ.「事業計画」を法人として決定している／いない	いる			
	ウ. 担当圏域やセンターが抱える課題を把握した上で、平成29年度の事業実施に当たっての重点業務を決めている／いない	いる			
	エ. ウが「いる」の場合、重点業務の具体的内容【自由記入】	関係機関との連携強化、ネットワーク作りを行って行く為に、各専門機関との会議や定例会等へ積極的に参加をしていた。			
	オ.「事業計画」の進捗状況のチェック及びチェックに基づく業務改善の具体的な実施方法【自由記入】	事業計画や年間業務スケジュールの作成と、実際に実施されているか等、定期的に状況確認を職員間で行っていた。			
	カ. その他【任意・自由記入】	各マニュアル等の確認及び、事業計画の作成、確認等を職員全員で行った。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
②担当する圏域における高齢者人口及び世帯の把握を行っているか。【29.4.1現在】		4	4		
評価の根拠	ア. 担当する圏域の65歳以上の高齢者人口【時点・人数を記入】	H 29 年 4 月 1 日現在 ( 5,616 )人			
	イ. 担当する圏域の65歳以上の独居世帯の数、高齢者世帯の65歳以上の高齢者数【時点・世帯数・人数を記入】	H 29 年 4 月 1 日現在 独居世帯数( 1,396 )世帯 65歳以上の高齢者世帯の高齢者数( 3,570 )人			
	ウ. 担当する圏域の75歳以上の高齢者人口【時点・人数を記入】	H 29 年 4 月 1 日現在 ( 2,509 )人			
	イ. 担当する圏域の75歳以上の独居世帯の数、高齢者世帯の75歳以上の高齢者数【時点・世帯数・人数を記入】	H 29 年 4 月 1 日現在 独居世帯数( 750 )世帯 75歳以上の高齢者世帯の高齢者数( 1,763 )人			

③担当する圏域における利用者のニーズの把握を行っているか。		3	2.5		
評価の根拠	ア. 実施しているニーズ把握の方法【自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の民生委員定例会、市社協定例会に出席し直接の聞き取り。</li> <li>・介護予防、認知症予防教室等実施後にアンケートの実施。</li> <li>・居宅介護支援事業所、サービス事業所との定期的な情報交換。</li> <li>・シニア交流センター祭り、大根堀イベントなど地域行事へ参加し相談コーナーを行った。</li> <li>・町会など小規模での出前講座の実施。</li> <li>・オレンジ協力員との定期交流会(情報交換会)。</li> </ul>			
	イ. ニーズを基に実行した取組の具体例【自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の住民、民生委員、介護支援専門員等からの認知症の方の相談から、自宅や施設へのオレンジ協力員の定期的な訪問等の活動につなげていく事ができた。</li> </ul>			
④個人情報保護の徹底を行っているか。		3	2.8		
評価の根拠	ア. 個人情報保護マニュアルを整備し、職員全員が所持している／いない	いる			
	イ. 個人情報保護責任者を設けている／いない	いる			
	ウ. 個人情報の管理のために行っている具体的な方法 安全な保管場所(鍵・パスワード付)や管理の方法など【自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報は鍵付きの書庫に保管。就業開始時に開錠し終業時に施錠している。</li> <li>・パソコンはパスワードにてログインをしている。離れた際にはすぐロックがかかるように設定をしている。</li> </ul>			
	エ. 個人情報の取得・開示についてのチェック項目を設け、案件ごとに確認している／いない	いない			
	オ. その他【任意・自由記入】	個人情報のマニュアルを職員各自で持っている。			

⑤利用者が利用しやすい相談体制が組まれているか。		3	3.1																	
評価の根拠	ア. 夜間窓口(連絡先)の整備・周知の方策【自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括営業時間外にかかってくる電話は法人本部の固定電話に転送され対応している。法人本部からの緊急連絡には、地域包括相談員が所持している包括の携帯電話で受ける体制をとっている。</li> <li>・営業時間外での相談希望にも対応できることを地域包括入口外部に掲示している。</li> </ul>																		
	イ. 対応分類(訪問、面接、電話)別の夜間対応の件数(29年度1年間) 【月報の件数を記入】 ※17:00以降に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>8件 内( 8件)</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>4件 内( 4件)</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>12件 内( 9件)</td> <td>3件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>24件 内( 21件)</td> <td>3件)</td> </tr> </tbody> </table>			本人又は親族	その他	訪問	8件 内( 8件)	0件)	面接	4件 内( 4件)	0件)	電話	12件 内( 9件)	3件)	合計	24件 内( 21件)	3件)		
		本人又は親族	その他																	
	訪問	8件 内( 8件)	0件)																	
	面接	4件 内( 4件)	0件)																	
	電話	12件 内( 9件)	3件)																	
	合計	24件 内( 21件)	3件)																	
	ウ. 土曜・休日窓口(連絡先)の整備・周知の方策【自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括営業時間外にかかってくる電話は24時間365日法人本部の固定電話に転送され対応している。法人本部からの緊急連絡には、地域包括相談員が常時2名体制で所持している携帯電話で受ける体制をとっている。</li> <li>・営業時間外での相談希望にも対応できることを地域包括入口外部に掲示している。</li> </ul>																		
エ. 対応分類(訪問、面接、電話)別の土曜・休日対応の件数(29年度1年間) 【月報の件数を記入】 ※8:30-17:00に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>6件 内( 6件)</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>1件 内( 1件)</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>3件 内( 2件)</td> <td>1件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>10件 内( 9件)</td> <td>1件)</td> </tr> </tbody> </table>			本人又は親族	その他	訪問	6件 内( 6件)	0件)	面接	1件 内( 1件)	0件)	電話	3件 内( 2件)	1件)	合計	10件 内( 9件)	1件)			
	本人又は親族	その他																		
訪問	6件 内( 6件)	0件)																		
面接	1件 内( 1件)	0件)																		
電話	3件 内( 2件)	1件)																		
合計	10件 内( 9件)	1件)																		
※17:00以降に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>4件 内( 4件)</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>0件 内( 0件)</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>7件 内( 6件)</td> <td>1件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>11件 内( 10件)</td> <td>1件)</td> </tr> </tbody> </table>			本人又は親族	その他	訪問	4件 内( 4件)	0件)	面接	0件 内( 0件)	0件)	電話	7件 内( 6件)	1件)	合計	11件 内( 10件)	1件)			
	本人又は親族	その他																		
訪問	4件 内( 4件)	0件)																		
面接	0件 内( 0件)	0件)																		
電話	7件 内( 6件)	1件)																		
合計	11件 内( 10件)	1件)																		
オ. 職員が、緊急時に連携できる医療機関・介護事業者等の各種施設の連絡先を携帯している/いない	いる																			
カ. 地域包括支援センターのPRのために講じている具体的方策【自由記入】	体操教室、町会等への出前講座やシニア交流センター祭り、大根堀イベント等での相談コーナーの設置や広告配布等。																			
キ. その他【任意・自由記入】	駅から包括支援センター間のバス便に制限があり、公共交通機関等を利用して地域包括に相談に来ることが難しい。 職員間で訪問時間の調整をして相談業務に支障の出ない様になっている。																			

⑥利用者の満足度向上のための適切な苦情対応体制を整備しているか。	4	3.7		
ア. 地域包括支援センターで受け付けた苦情受付件数と、そのうちセンター自体に対する苦情件数(29年度1年間)【件数を記入】	苦情受付件数 1件 (内センター自体の苦情 0件)			
イ. 「29年度1年間に受けた苦情のうち最も困難な苦情」の解決にかかった時間及び解決のために主に連携した機関【時間及び機関を記入】	解決時間: 0 時間 連携機関: 困難な苦情は特に無かった。			
ウ. 苦情対応窓口に関する情報(連絡先、受付時間等)を公開している/いない	いる			
エ. ウが「いる」場合、公開している場所・方法【自由記入】	苦情解決規定を事務所入り口に掲示している。 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援重要事項説明書内にも記載している。			
オ. 重大な苦情の内容及び対応方法を決定し、関係機関と共有している/いない	いる			
カ. その他【任意・自由記入】	苦情受付表を作成し対応している。			

評価の根拠

## 2. 人員体制

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
①多様なニーズに対応できる知識・経験のある職員の確保・育成を行っているか。		4	3		
評価の根拠	ア. 3職種(保健師等/社会福祉士/主任介護支援専門員)の欠員期間(日数)【日数を記入】 ※年度末に報告する欠員期間(日数)を記入 ※欠員がなければ0を記入	保健師等 : ( 0 )日  社会福祉士 : ( 0 )日 主任介護支援専門員 : ( 0 )日			
	イ. 「専門職総数」のうち「今年度新たに配属された専門職」の比率【比率(新たに配属された専門職数/専門職総数)を記入】	H29年度内に 新たに配属された専門職数 / 専門職の総数 ( 3 ) / ( 3 ) = ( 100 %)			
	ウ. 専門職の当該地域包括支援センターでの平均勤続月数【月数を記入】 ※平成30年3月末現在の平均勤続月数を記入	平均 12ヶ月			
	エ. 職員に対する職場内研修の開催回数【回数を記入】	8 回			
	オ. その他【任意・自由記入】 (研修内容を記載する場合は、日時・内容・時間数を記入)	研修参加者が研修報告書を作成し他の職員へ伝達をおこない、情報の共有を図っている。			

②専門職間の連携を効果的に行っているか。		3	3		
評価の根拠	ア. すべての専門職の「連携活動評価尺度」の得点 【すべての専門職の得点を記入】 ※全国平均は24.5点 ※平成30年3月末現在在籍している全ての専門職について記入	①27 ②23 ③22 ④ ⑤ ⑥ ⑦  平均 24点			

### 3. 総合相談支援業務

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
①相談内容の把握・分析を行っているか。		4	3.7		
評価の根拠	ア. 分類別の相談件数 (29年度1年間)  a.本人又は親族への支援 【月報の件数を記入】	<b>a.本人又は親族への支援</b> 介護に関する相談 740件 健康・医療に関する相談 497件 経済的相談 157件 介護予防に関する相談 92件 家族調整に関する相談 173件 権利擁護に関する相談 15件 諸制度に関する相談 124件 地域の社会資源に関する相談 85件 その他 246件 総計 2,129件  <b>b.本人又は親族以外の機関への支援</b> 介護に関する相談 932件 健康・医療に関する相談 493件 経済的相談 194件 介護予防に関する相談 34件 家族調整に関する相談 272件 権利擁護に関する相談 33件 諸制度に関する相談 126件 地域の社会資源に関する相談 129件 その他 290件 総計 2,503件			
	イ. 他のセンターと比較した分類別の相談件数の特性と、当該センターにおける相談内容の主な特徴の検討結果【自由記入】※直近の介護保険運営協議会資料を参照して比較検討	高齢化率については市内15の地域包括中、中心に位置している。相談内容としては介護の相談より介護予防の相談が多く、介護保険外(通いの場、緊急通報装置、軽度生活援助券等)のサービスについての相談が多かった。介護になる前段階、軽度での相談が多く健康に対する意識や意欲が高い住民が多かった。又、経済的な相談と家族間、他問題(家族が精神疾患等)が多かった。			
	ウ. 全ての相談事例について相談受付表を作成し、緊急性を判断している/いない	いる			
	エ. 主担当職員が不在の場合でも対応できるように職員間で共有できる記録の管理を行っている/いない	いる			
	オ. その他【任意・自由記入】				



<p>②相談事例の解決のために、進捗管理や他分野との連携等、必要な対応を行っているか。</p>	<p>4</p>	<p>3.2</p>		
<p>ア. 解決困難な相談事例を分類し、進捗管理を定期的に行っている／いない</p>	<p>いる</p>			
<p>イ. 専門的・継続的な関与又は緊急の対応が必要と判断した場合であって、市へ報告した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】</p>	<p>年齢:80歳代。介護度:要介護4。 相談経緯:利用中のデイサービスから利用者の体に痣があると連絡があったと居宅のケアマネより虐待(疑い)通報があった。 虐待ケースとして市に報告し担当ケアマネと共に支援を開始。同居の孫が本人と意思の疎通が図れない事により腕を強くつかむなどの行為がある事がわかった為、ショートステイの利用や施設利用を提案していったが、結果として支援途中に体調不良になってしまい子の勤務先の病院に入院となる。退院後家族は自宅介護を望んだ為サービスの調整を行っていったが、本人の心身の低下に伴う子の介護疲れもあった為、看護多機能型居宅介護サービスの利用に移行した。移行後は家族の負担も軽減した事もあるようで虐待は無くなった。</p>			
<p>ウ. 障害者支援機関と連携して対応した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】</p>	<p>年齢:70歳代。介護度:未申請(その後申請し要介護3) 相談経緯:前地域包括からの引継ぎ事例。 2人暮らしで路上生活者の様な生活をしており、所在もわからない為入浴等の清潔保持や食の確保が出来ているかも不明。警察通報をされる事も多く人を信用していなかった。COCO、生活支援課、高齢者支援課、障害者福祉課と担当者会議等を開催し対応策を検討。その後同法人内施設での入浴ができ、地域包括で軽食の提供を開始。地域包括に来所すると軽食がある事を伝える等、本人との信頼関係を構築した事により定期的に通ってもらえる様になった。介護申請を行いデイサービスの利用につなげる事が出来た。</p>			

<p>エ. 介護家族からの相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】</p>	<p>年齢:80歳代。介護度:未申請(その後申請し要介護2)  相談経緯:子の配偶者からの相談。  他県在住、無年金、無保険の義父と同居し面倒を見て来たが、暴言や暴力(介護抵抗)を受けるようになったとの事。夜間に本人が激高した為、分離対応を行う。分離後子の扶養から抜けた後に生活保護申請を行い施設入所に至る。当初は金銭面等も含めて本人に対する子と子の配偶者の意向に相違があった為、分離後も生活保護制度の説明や介護保険サービスの利用等について本人・子の配偶者へのサポートを継続していった。</p>		
<p>オ. 介護と仕事の両立支援など、子育て部門と連携して対応した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】</p>	<p>年齢80歳代。介護度:要介護2。  相談経緯:自分の担当する利用者と同じマンションの同じ階に住んでいる方が勝手に家に上がり込んだり廊下をうろうろしたりしている。デイサービスを利用しているようだが、家族やケアマネは状況を知っているか確認してほしい。  訪問し本人にお話を伺うが「何もわからない」と詳しい事はわからないが、置いてあったデイサービスの連絡帳からケアマネが分かりお話を伺う。子は仕事の為本人は日中独居。本人無年金で子が引きとり生活しておりサービスを増やそうにも経済的に余裕がない。又、子は正社員になれるかもしれないとの話もあるが、本人の介護がある為残業ができない。他の方の家に入っていくてしまう等は周りからの苦情も含めた介護疲れもあり、担当ケアマネに「玄関に鍵をかけられないのか本人を出れない様にしたい」との相談をされた為、身体拘束にあたる事を説明。その後地域ケア会議で担当ケアマネも含め話し合いを行った結果、グループホームへ入所となる。入所後は子も気持ちが落ち付き、グループホームへ入所した本人も含めて穏やかに生活されている。</p>		
<p>カ. その他【任意・自由記入】</p>	<p>月1回の3職種会議を実施、ケースの進捗状況の確認や終結の判断等を行い専門職間での共有をはかっていった。</p>		

③地域における関係機関のネットワークの構築を行っているか。	4	3.7		
ア. 地域(圏域内・外)のネットワークの構成員や組織、関係性等の情報をマップやリストで管理している／いない	いる			
イ. 職員が参加した関係機関・組織等が主催する全ての会議・行事等の総件数・日程・テーマ 【総件数・日程・テーマを記入】 ①関係機関・地域の町会等による住民等向けイベント ②関係機関等の関係者・専門職向け会議・イベント ③地域密着型サービス事業者の運営推進会議等に大別して記入  ※地域ケア会議、センター長会議、各専門職部会などは含まない。 ※介護予防普及啓発活動、認知症サポーター養成講座など他の項目で記入している内容は重複して記入しない。	①関係機関・地域の町会等による住民等向けのイベント(2件) 11月4日:松戸市シニア交流センター祭り 【テーマ】地域住民への地域包括支援センターの紹介 11月11日:大根堀とふれあい広場 【テーマ】地域住民への地域包括支援センターの紹介			
	②関係機関等の関係者・専門職向け会議・イベント(6件) 10月20日:松戸市介護支援専門員協議会研修会 【テーマ】ケアマネージャー自身の身を守るクレームトラブル対策、他 10月25日:介護予防ケアマネジメント研修会 【テーマ】松戸市介護予防、日常生活支援総合事業について、他 10月27日:高齢者虐待防止ネットワーク専門職向け研修会 【テーマ】ここが変わった高齢者虐待防止マニュアル 1月19日:居宅介護支援事業者等研修会 【テーマ】ケアマネジメントの過程を考える 3月7日:法務研修 【テーマ】相談業務と個人情報 3月19日:在宅医療・介護連携相談窓口プロジェクト事例検討会 【テーマ】平成29年度アウトリーチ事例についての報告及び検討			
	③地域密着型サービス事業者の運営推進会議等(20件) ・グループホームかがやき新松戸 4月1日、6月3日、10月7日、12月2日、2月3日 ・松戸グループホームそよ風 4月15日、6月17日、8月19日、12月16日、2月17日 ・グループホーム借楽園 6月27日、8月22日、10月24日、12月19日、2月20日			
ウ. 個人の有するネットワークを専門職で共有している／いない	いる			

④地域の社会資源について把握および開発を行っているか。		3	2.8		
評価の根拠	ア. 高齢者支援等を行う介護保険外サービス(※)を行う地域(圏域内・外)の社会資源のうち、センターと連携や交流の実績がある資源の数(〇ヶ所)【ヶ所数を記入】 ※配食、見守り、移送、サロン、地域の予防活動等	圏域内 13 ヶ所 圏域外 8 ヶ所			
	イ. <マップについて> 地域の社会資源に関するマップについて ①マップを作成し、社会資源の開催内容・場所・回数・連絡先等の情報が掲載されている ②マップを作成しているが、社会資源の開催内容・場所・回数・連絡先等の情報が掲載されていない ③マップは作成していない 【①・②・③を選択】 ※マップを一部提出	①マップを作成し、社会資源の開催内容・場所・回数・連絡先等の情報が掲載されている			
評価の根拠	ウ. <マップについて> 「イ」の地域の社会資源に関するマップを平成29年度内に更新をしている/いない	いる			
	エ. <マップについて> 作成した社会資源に関するマップの活用及び周知方法【自由記入】	市民センターや特別養護老人ホームに設置、マップ作りの参加者に配布。希望者にも配布。			
	オ. 社会資源(※)の立ち上げ運営又はそれらの支援を行った数と、そのうち新規立ち上げ支援数(29年度1年間)【ヶ所数を記入】 (※)住民主体の予防活動、通いの場、サロン、認知症カフェ等	総数 0 ヶ所 (内新規立ち上げ支援数 0 ヶ所 )			
	カ. 「オ」の各社会資源の種類・特徴・開催回数(週・月〇回)など詳細情報【自由記入】				
	キ. その他【任意・自由記入】				

#### 4. 権利擁護業務

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
①成年後見制度や日常生活自立支援事業(社協)の活用を促進しているか。		2	2		
評価の根拠	ア. 成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用する必要がある者の把握方法【自由記入】	アセスメントにおいて金銭面についての確認等を行い、情報提供などを行ってきたが、実際に成年後見制度や日常生活自立支援事業に繋がったケースは年度を通してなかった。			
	イ. ①成年後見制度活用につなげたケース数(29年度1年間)【月報の件数を記入】、②他のセンターとの比較等を通じた当該センターの特性の分析と今後の対応策の検討結果【自由記入】 ※介護保険運営協議会資料を参照して比較検討	① 0件  ②今年度は成年後見制度に繋げていくケースはなかったが、地域の特性として独居高齢者や経済的に不安がある方が多い為、現在対応中のケースも含めて市長申し立て等が増えて行く可能性がある。			
	ウ. ①日常生活自立支援事業につなげたケース数(29年度1年間)【月報の件数を記入】、②他のセンターとの比較等を通じた当該センターの特性の分析と今後の対応策の検討結果【自由記入】 ※介護保険運営協議会資料等を参照して比較検討	① 0件  ②経済的な不安があり、財産保全ではなく金銭管理が出来ないケースが多く、日常生活自立支援事業で対応しようと思うが単身でキーパーソンとなる家族がいない等で導入が出来ない。			
	エ. その他【任意・自由記入】	制度を利用する事による、本人、家族の関係などによる、利用前後のトラブル等についての対応方法などについての不安。			

②関係機関と連携しつつ、高齢者虐待事例に対して適切かつ迅速に対応しているか。		4	3.7			
評価の根拠	ア. センター自身が警察や法律家と連携して対応した高齢者虐待事案の件数(29年度1年間)【件数を記入】	2 件				
	イ. 職員が、虐待事例に関する緊急時に連携できる介護施設・医療機関等の各種施設の連絡先を携帯している／いない	いる				
	ウ. 通報を受け48時間(24時間)以内に安全確認や必要な対応を行った事例の概要と対応内容(1事例)	年齢:80歳代。介護度:要介護2。 相談経緯:夜間の電話連絡にて緊急訪問した事例。 同居の義父に対し子の配偶者が日常生活上の問題を指摘した所、突然逆上されて暴力を受けたとの事。当時、子が不在な為直ぐには自宅に戻れない状況にあった為、警察対応にて分離に至った。担当ケアマネの調整にてお泊りティを緊急避難的に利用。無年金、無収入の為、生活保護申請を行い、入居可能な施設が決まる間ショートステイを利用後施設入所となった。				
	エ. その他【任意・自由記入】					

③消費者被害の防止や権利擁護に関する啓発に関する取組を行っているか。		3	2.7		
評価の根拠	ア. 松戸市消費生活センター(又は松戸市消費生活課)との定期的な情報交換の方策及び頻度【自由記入】	不審な電話に対する電話内容の録音機器のデモを設置し、体験利用や広告の説明、配布を行った。			
	イ. 消費者被害防止のための民生委員・介護支援専門員・訪問介護員等への情報提供等の実施方策及び頻度【自由記入】	地域ケア会議での民生委員等関係各位への伝達。			
	ウ. センターが開催した権利擁護に関する全ての住民向け講演会の開催回数・日程・内容・主な参加者層・参加者数【開催回数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】 ※他センターとの合同開催も記載し、その旨を明記	開催回数合計 1回 小金圏域合同開催 大切なものを守るために ～高齢者や支援者が知っておきたい仕組み(後見、虐待防止、相続等)～東葛総合法律事務所 弁護士 藤吉 彬 日時:平成29年9月27日(水)14:00～16:00 会場:小金原市民センター 2階 ホール 参加人数:49 30代～80代 女性参加者が多かった。			
	エ. その他【任意・自由記入】	詐欺防止のポスターや電話の録音の為の機器のデモを設置、実演などを行った。			

## 5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
①地域の介護支援専門員に対して、日常的指導・相談を効果的に行っているか。	3	3.5	①3ヶ月に1回、圏域を超えてケアマネ研修会を継続して行った。	
ア. 29年度1年間における地域の介護支援専門員からの相談件数【月報の件数を記入】	751 件			
イ. 「29年度1年間における地域の介護支援専門員から受けた相談のうち最も困難な相談事例(1事例)」の概要及び対応内容【自由記入】	年齢:80歳代。介護度:要介護4。 相談経緯:担当ケアマネから利用先のデイサービス経由で身体的虐待(疑い)との通報。 虐待が疑われる通報ケース。子と孫が同居、体に不自然な痣、外傷があり近くの総合病院に入院となっても子の勤めている都内の病院に当日中すぐ転院させてしまう等、詳細の把握がなかなかできなかったが、地域包括として担当者会議等、子やサービス事業所との話し合いを続けていき小規模看護多機能の利用へつなげる事ができ虐待が解消された。			
ウ. 29年度1年間における「地域の介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会」の開催回数【回数を記入】	4 回			
エ. 29年度1年間における「地域の介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会」の日程・内容・講師【日程・内容・講師を記入】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月26日 14時～16時 参加者16名 ケアプラン作成の基本 明第2西地域包括支援センター 予防管理者</li> <li>・8月31日 14時～16時 参加者22名 ターミナルケア看取りについて事例検討会</li> <li>・11月20日 14時～17時半 参加者92名 ①平成30年度法改正を見込んだケアマネジメント 淑徳大学結城教授 ②伝えるケアマネジメント 馬橋西地域包括支援センター長</li> <li>・平成30年2月6日 14時～16時 参加者36名 知っておこう社会保険と公的年金のしくみ 社会保険学専士 梅</li> </ul>			
オ. その他【任意・自由記入】				



<p>②地域の介護支援専門員に対して、支援困難事例等への個別指導・助言を効果的に行っているか。</p>	<p>3</p>	<p>3</p>		
<p>評価の根拠</p>	<p>ア. 同行訪問による個別指導・助言の件数(29年度1年間) 【月報の件数を記入】 ※サービス担当者会議への出席は同行訪問に含めないものとする。</p>	<p>17 件</p>		
	<p>イ. アのうち、最も支援困難な事例(1事例)の概要及び個別指導・助言の内容【自由記入】</p>	<p>年齢:80歳代。介護度:要介護1。 相談経緯:ケアマネからの相談で本人支援の途中で、内縁の配偶者が浮上した事例。 当初は本人の支援に対する相談だったが、内縁の配偶者がいる事が分かり、本人と同時の支援になった。内縁の配偶者とは40年来共に商売を営み、今日まで同居して来た経緯があるが、本人は要介護状態で年金に限りがあり経済的余裕がない為、本人による内縁の妻への支援は事実上不可能な状況であった。経済面での分離を図り、本人は自身の年金を活用して施設へ入所、内縁の配偶者は生活保護受給となり、元々名義人であった事から在宅で定住となり在宅サービスを継続利用になる。</p>		
	<p>ウ. サービス担当者会議への出席による指導・助言の件数(29年度1年間)【月報の件数を記入】</p>	<p>21 件</p>		
	<p>エ. ウのうち、最も支援困難な事例(1事例)の概要及び指導・助言の内容【自由記入】</p>	<p>年齢:60歳代。介護度:要介護2。 相談経緯:民生委員からの依頼で介入。 内縁の配偶者と本人の2人暮らし、海外出身で日本語がほとんど話せない。2号被保険者で要介護2。近所のリハビリ特化型デイサービスに通っている。内縁の配偶者は就労中で9時～22時まで不在。正月には商店で万引きして保護される事があった。日中の食事が確認できておらず、街中を歩きながら徘徊しているが内縁の夫は病識が無く、経済的な負担を理由にサービス追加を拒む。担当ケアマネに対し遠くにいる子も含めて話し合いの必要があるのではと助言を行い、内縁の配偶者の不在時間が長いという事もあり、看護小規模多機能サービス利用についての情報提供と話し合いを行い利用に繋げる事ができた。</p>		
	<p>オ. その他【任意・自由記入】</p>			

## 6. 地域ケア会議関係業務

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
①地域ケア会議の開催を通じて、地域の課題を把握しているか。		3	3.5		
評価の根拠	ア. 29年度1年間における、地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の開催回数【件数を記入】	①地域包括ケア推進会議 2回 ②地域個別ケア会議 4回			
	イ. 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の開催に当たって、関係機関等の意見を聴取した上で、議題とする事例やテーマを選定している／いない	いる			
	ウ. アが「いる」の場合、その具体的方策【自由記入】	ケアマネ、民生委員、近隣の薬剤師の相談などにより事例を決定。			
	エ. 議題とする事例やテーマにあわせて、地域ケア会議の参加者を決定している／いない	いる			
	オ. ウが「いる」の場合に、①当該地域個別ケア会議の事例と②参加した医療・介護関係者以外の関係者の職種【事例・職種を記入】	①夫婦への支援を行いたいが、被害妄想の為必要と思われるサービスの導入が出来ない事例。 ②民生委員、町会関係、地区社協、オレンジ協力員			
	カ. 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の議論内容(議論のまとめ又は議事録)を参加者間で共有している／いない	いる			
	キ. その他【任意・自由記入】				

②3層構造の地域ケア会議の連携を通じて、地域の課題解決を図っているか。		4	3.7		
評価の根拠	ア. 地域個別ケア会議の個別事例から課題を抽出し、地域包括ケア推進会議での議題にあげている事例(2事例)【自由記入】	<p>年齢:70歳代。介護度:未申請(その後申請し要介護1)  相談経緯:地区担当民生児童委員及び町会長からの相談事例。  課題:認知症高齢者の運転。  本人が自家用車を路上に放置したまま迷子になり警察に保護された。  自動車運転をしているが危険を考慮して対応して欲しいとの意向。翌日、本人と面談による同意の下、専門医受診に至る。医師より軽度認知症を診断され運転を控えるよう促される。本人、町会長、老人会会長、地区担当民生児童委員等との協議の結果運転免許証返納という事になったが、運転免許証だけは所持していたとの本人の強い意向もあり、車両の売却、駐車場の解約、保険解約(自賠責、任意)等の諸手続きを支援し完了する。事実上車を処分した為運転はリタイヤする運びに至った。当該事例を地域包括ケア推進会議にてメンバー間で協議できたことは、今後、地域に在住する高齢者ドライバーにおける地域課題として共通認識を持つ良い</p> <p>年齢:70歳代。介護度:未申請(その後事業対象者として申請)  相談経緯:専門機関より相談。  課題:ゴミ屋敷問題。  生活保護受給者。元々路上生活者で清潔の概念や生活環境に対する考え方が一般的ではなく、朝起きてゴミを出す事が出来ず自宅がゴミ屋敷になってしまっているケース。シルバー人材センターで軽度生活援助券を申請、又、社会福祉協議会の掃除の支援等を検討するが生活保護受給者は利用する事ができなかった。地域包括、支援をしていた専門機関と共に自宅内の掃除を行った。掃除後は本人も二度とこういう事にはならないと意欲を見せられ、事業対象者として申請し訪問介護のサービスを導入し定期的にごみ捨てや掃除の支援を受けていった。</p>			
	イ. 地域包括ケア推進会議で抽出された課題をまとめて、市の定める期限・様式に従って、市に報告している/いない	いる			
	ウ. 市の地域ケア会議での決定事項を、地域包括ケア推進会議で報告している/いない	いる			
	エ. その他【任意・自由記入】				

## 7. 在宅医療・介護連携推進業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
①医療機関との緊密な連携を行っているか。	3	3.3		
ア. 在宅医療を行う医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要【自由記入】	<p>年齢:70歳代。介護度:未申請(その後申請し要介護2)            相談経緯:本人からの相談。独居高齢者。脳疾患の既往あるも自己判断にて治療を中断していた事例。数日前に自宅玄関先で転倒した際右手首を痛めてしまった。経過を見て来たが痛みには耐えられなくなったとの事。即日自宅訪問し実態把握する。全身観察により右手首のみの受傷(骨折の疑い)と判断した。同日、地域のサポート医へ往診依頼する。往診の結果、既往に対する服薬が滞っている事、右手首に関しては専門医の受診の必要性を指摘される。紹介状にて市内整形外科専門医を受診し骨折の診断を受け入院手術に至る。加療、リハビリを経て退院前カンファレンスの後、退院となる。退院看護サマリー及び診療情報提供書をサポート医へ渡し、サポート医による定期往診が保障される。地域サポート医、総合病院(専門医)、看護師、相談員、ケアマネ、地域包括、地区担当民生児童委員等、各関係者による緊密な連携により在宅復帰できた。</p> <p>年齢:40歳代。介護度:未申請。            相談経緯:病院の相談員より相談。がん末期で対症療法中の方が在宅を希望しているとの事。IVHとHOTのみで食事は摂れず麻薬を使用中。体調にムラがあり自分で移動できる日とベッド上から全く動けない日がある。介護ベッド・オーバーテーブル・補助クッションのレンタルを希望している為、介護保険申請を早急に行うのでケアマネを紹介して欲しいとの事。相談員より訪問看護と在宅医療機関には連絡済み。治療できる段階ではなく余命は数ヶ月との事だが本人の希望もあり最期は自宅での思い退院することにしたとの事。孫がどこまで理解しているかは不明だが皆で力を合わせて行こうと話している。退院時に訪問診療の医師や看護師等を交えて会議を開催する。自宅へ帰った後訪問看護、在宅医療機関を利用を開始。その後自宅で亡くなった。</p>			

評価の根拠

<p>イ. 外来診療を行う医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要 【自由記入】</p>	<p>年齢:70歳代。介護度:要介護2 相談経緯:配偶者からの相談。 自宅訪問による本人面接の下、主訴を把握、確認し、介護保険申請となるが、かかりつけ医が存在しない事実が判明する。1年前に救急搬送された経緯があり、その時の搬送先の担当医に主治医を委ねる事を試みるも叶わず、その旨を地域サポート医へ連絡し事情を説明する。介護保険申請に伴う主治医依頼について快く承諾して頂き速やかな受診に繋がった。ケアマネによるサービス調整の下、デイサービス利用となり、家族のレスパイト及び本人の心身機能低下防止に大きな効果を見出した。</p>	
	<p>年齢:80歳代。介護度:要介護1。 相談経緯:担当ケアマネより相談。 独居で最近は認知症が進んでいる。3月までは生活支援でヘルパーサービスを利用していたがサービスの時間を忘れて出かけた。寝ていて鍵がかかっているためヘルパーが入れない事が続き中止になった。自分の行動を忘れ高齢者支援課などにヘルパーが来ないと電話をする。その都度説明をするが忘れてしまい同じことを繰り返す。前の地域包括より専門医の受診を勧められたが通院ができていない。認知症初期集中支援チームの利用やなかなか関わりの無かった子への連絡を繰り返し行い、サポート医への受診につなげることができ、内服薬にて治療を開始。現在思いついたところに電話を何度もかける等の行動はある。小規模多機能の利用を開始した。</p>	
<p>ウ. 入院医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要 【自由記入】</p>	<p>年齢:70歳代。介護度:未申請(その後申請し要支援1) 相談経緯:入院先の相談員からの相談事例。独居高齢者の退院後の在宅支援を担った事例。入院先訪問にて診療情報の共有及び本人面談を行う。即日退院との指示にて急遽退院支援となった。介護保険申請は相談員が行い、退院後の在宅介護サービスの調整は地域包括、双方の役割分担にて支援を行っていった。認定の結果要支援1の認定結果となったが定期受診はできており、サービスの利用を希望していなかった為、今後は見守り支援となる。</p>	
<p>エ. その他 【任意・自由記入】</p>	<p>年齢:90歳代。介護度:申請中。 相談経緯:子より退院後の生活についての相談。 左足首に菌が入り入院。左膝下10cmで切断。今後装具を装着するのであれば、リハビリに3ヶ月位かかる。装具を付けなければ1ヶ月で退院と言われている。介護保険申請は済み認定調査は1週間程前に済んでいる。介護保険でどのようなサービスを使えるのか話しを聞きたいと子が来所。レンタル・住宅改築・入浴を含めたデイサービスを説明。子より担当理学療法士の家屋調査があるのか聞いてもらいたいと依頼がある。地域包括より病院理学療法士に家屋調査をしてもらえるのか確認。担当理学療法士より家屋調査を行うので住宅改修の事業所とケアマネを探して欲しいとの事に対応。</p>	

<p>②医療関係者とのネットワークを活用して、地域における医療的な課題の解決を図っているか。</p>	<p>3</p>	<p>3.2</p>			
<p>評価の根拠</p>	<p>ア. 地域サポート医(在宅医療・介護相談窓口)へ相談を行った件数(29年度1年間)【①相談支援件数・②アウトリーチ件数・③総件数を記入】 ※相談支援件数・アウトリーチ件数は別掲 ※地域サポート医事務局を介した件数を再掲</p>	<p>①相談支援件数 3件 (内、サポート医事業 3件) ②アウトリーチ件数 0件 (内、サポート医事業 0件) ③総件数(①+②) 3件 (内、サポート医事業 3件)</p>			
	<p>イ. 地域サポート医との連携により、地域における医療的な課題に対応した事例(2事例)の概要【自由記入】</p>	<p>年齢:70歳代。介護度:未申請(その後申請し要介護2) 相談経緯:本人からの相談。 独居高齢者。脳疾患の既往あるも自己判断にて治療を中断していた事例。数日前に自宅玄関先で転倒した際、右手首を痛めてしまった。経過を見て来たが痛みが耐えられなくなったとの事。即日自宅訪問し、実態把握する。全身観察により右手首のみの受傷(骨折の疑い)と判断した。同日、地域のサポート医へ往診依頼する。往診の結果、既往に対する服薬が滞っている事、右手首に関しては専門医の受診の必要性を指摘される。紹介状にて市内整形外科専門医を受診し、骨折の診断を受け、入院手術に至る。加療、リハビリを経て退院前カンファレンスの後、退院となる。退院看護サマリー及び診療情報提供書をサポート医へ渡し、サポート医による定期往診が保障され在宅復帰となった。</p>			
		<p>年齢:80歳代。介護度:申請中。 相談経緯:民生委員より相談。 約1年前位から幻覚があり、背の低い男の人がいる。その男の人は子だったり子の配偶者だったりする。男の人が侵入すると言いい和室の襖にガムテープを貼り開かないようにしている。孫が毎日電話をかけているが電話があつた事も忘れていた。今回、介護保険申請をして再度サービスを利用したいと考え来所。本人は在宅を望んでいるが子供達は今の状況で独居は難しいと思っているが子供達それぞれの意見が違っていた。かかりつけ医がいない為、サポート医に相談し主治医意見書を願ひし介護保険の申請を進め、ケアマネを紹介しサービス調整を行いデイサービスの利用につなげる事が出来た。</p>			

ウ. 医療関係者とのネットワークを構築するために 行っている具体的な方策【自由記入】	医師、薬剤師等医療関係者が地域ケア会議に参加してもらい情報共有。又近隣の薬局の薬剤師からは気になる方がいた際には連絡して頂く等関係性の構築を図っている。			
エ. 医療関係者と合同で参加した全ての事例検討・研修会・勉強会の日程・テーマ【参加回数合計・日程・テーマを記入】※担当者会議は含まない	参加回数合計 7回 4月18日：道路交通法改正に伴う認知症高齢者に関する講習会 4月25日：リハビリ専門職のアセスメント支援事業の説明会 5月12日：ふくろうプロジェクトケアマネジャー説明会 9月6日：短期集中予防サービスおよびリハビリ専門職によるアセスメント支援事業における地域包括支援センターに対する説明会 9月25日：在宅医療・介護連携相談窓口プロジェクト事例検討会 10月27日：高齢者虐待防止ネットワーク専門職向け研修会 11月27日：平成29年度専門職向け認知症関連研修			
オ. その他【任意・自由記入】				

## 8. 認知症高齢者支援

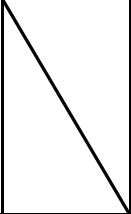
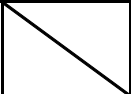
評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項	
①認知症の早期把握・早期対応を推進しているか。	3	2.6			
評価の根拠	ア. 包括自身が主体となって認知症初期集中支援チーム事業を実施している/いない	いない			
	イ. 認知症初期集中支援チームにつないだ、または包括自身が認知症初期集中支援チームとして実施した事例の件数(29年度1年間)【件数を記入】	1 件			
	ウ. 認知症初期集中支援チームにつないだ事例(1事例)の概要・センターの対応内容・チームとの連携内容 チームを実施している包括は、支援事例(1事例)の概要・チームとしての対応内容・関係者との連携内容【自由記入】	年齢:80歳代。介護度:要介護1。 相談経緯:担当ケアマネより相談。 本人の子と連絡が取れず、サービス利用も無い為地域包括に支援して欲しいとの連絡。子に電話やショートメール等を送り連絡を取っていった、その後初期チームと共に必要な受診につなげる事ができ現在は小規模多機能を利用中。			
	エ. DASCを活用した軽度認知症についてのアセスメントを実施し、継続支援につながった件数(29年度1年間)【件数を記入】	4 件			
	オ. DASCを活用してアセスメントを行った事例(1事例)におけるケアマネジメントの内容と実際に行われた医療機関受診・サービス利用・セルフケアの内容【自由記入】	年齢:80歳代。介護度:未申請(その後事業対象者として申請) 独居、ゴミ屋敷。地域包括、COCOと協力しゴミを撤去し生活環境を整備。事業対象者の申請をし、サービスを導入したが物忘れがひどくDASC実施。受診は強く拒否。セルフケアとしてナシクロ等を行っていたが徐々にDASCの点数が悪くなってしまった為、サポート医と連携し受診につなげる事が出来た。			
	カ. その他【任意・自由記入】				



②認知症高齢者に対する地域での支援基盤を構築しているか。		3	3		
評価の根拠	ア. オレンジ協力員による「専門職と協力しながらの実践活動」の実施件数(29年度1年間)【件数を記入】	15 件			
	イ. アのうち、最も難易度の高いと考えられる実践活動の内容【自由記入】	年齢:80歳代。介護度:未申請。 相談経緯:前地域包括からの引継ぎより。 本人から認知症カフェや集いの場に関して聞きたいと電話があり。又、「話し相手がほしいので月に2回くらい訪問してくれないか。」と言われる。オレンジ協力員による傾聴の話をするとは是非お願したいとの事だったが、実際に活動を始めると本人の思いとは違う様であった為、途中で中断になる。失敗事例ではあるがこの活動を通じ、相談内容の傾聴や地域包括職員も含めて複数人で認知症独居高齢者に訪問し、活動を続けて行く事等の難しさを感じた。			
	ウ. センターが開催した全ての認知症サポーター養成講座の日程・主な対象者・参加者数 【参加者合計・日程・主な対象者・参加者数を記入】	参加者合計 3回 45人 【参加者】馬橋西地区の住民対象 【日程・人数】9月25日:19名、12月1日:11名、3月2日:15名			
	エ. 認知症ケアパスの普及啓発のために 行っている具体的方策【自由記入】	相談に来た方への説明や配布を行っていった。地域包括の入り口前にあるブックラックへの配置等。			
	オ. 認知症地域支援推進員の配置人数 【人数を記入】※平成30年3月末現在の配置数を記入	1 人			
	カ. 認知症地域支援推進員として活動した内容(29年度1年間)【自由記入】 ※ケアパス検討会等への出席を含む	3月8日に市役所渡り廊下にて認知症の普及・啓発活動の為、相談、助言、テスト等を認知症地域支援推進員としての活動として行った。			
	キ. その他【任意・自由記入】	・オレンジ協力員交流会を2ヶ月に1回開催し活動内容の報告や近隣施設でのボランティアの募集のお知らせ等を行っていった。 ・オレンジ協力員に協力してもらいシニア交流センターにて認知症カフェを開催した(3月18日)20名参加。			

## 9. 介護予防ケアマネジメント業務、介護予防支援関係業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
①自立支援に向けたケアマネジメントを行っているか。	4	2.1		
評価の根拠	ア. 自立支援型ケアマネジメント検討会への出席回数(延べ人数)【出席回数・延べ人数を記入】	9回 (延べ 16人)		
	イ. センターが行うケアマネジメントを通じて、住民主体のサービス、地域の予防活動等につないだ事例(2事例)の概要と対応内容【自由記入】	<p>年齢:70歳代。介護度:未申請。 相談経緯:本人自らセンターに来所相談された事例。 昨年6月まで長きに渡り就労して来たが、病気を発症し、やむを得ず離職に至る。他県在住の親の介護を担う事で自身の役割を見出し、自らは定期通院、内服治療により症状は安定していた。今年の3月に親が他界した事で役割を喪失し生活意欲が低下した。他者との関わりを拒み、自宅に籠るようになってしまった。相談の主訴に対し、地域社会資源に関する詳細説明、各サービス利用の提案を行う。また、当該資料を手渡し、持ち帰って貰う。後日、本人より松戸市広報に掲載された健康体操教室に申し込みを済ませたとの連絡があった。又、地区社協で開講しているペン習字講座を受講し始めたとの話も伺う。センター主催の健康体操教室にも参加されている事も見届ける。表情も明るく心身ともに健康となった様子がうかがえた。</p> <p>年齢:80歳代。介護度:要支援1。 相談経緯:認知症の方のお手伝いができればとの相談。 認知症サポーター養成講座に参加の声掛けし、認知症の予防や認知症に対する対応方法等について興味を持ってもらうことができた。</p>		
	ウ. センターが行うケアマネジメントを通じて、短期集中予防サービスなどにつなぎ、心身機能の改善につながった事例(2事例)の概要と対応内容【自由記入】	短期集中予防サービスへの情報提供は行ったが、実際につながった件数はなかった。		
	エ. ケアマネジメントC作成件数(29年度1年間)【件数を記入】	0 件		

<p>オ. 一般的なケースにおけるモニタリングの実施頻度と実施内容【実施頻度と実施内容を記入】</p>	<p>3ヶ月に1度以上の自宅訪問と月に1回以上の電話等でのモニタリングで、サービスの利用状況や目標の達成具合、サービス量が適切かどうか、体調の確認等を行っている。ケアプラン更新月にはモニタリングと評価のための訪問と、その後作成したケアプラン原案の説明のための再度の訪問を行っている。</p>			
<p>カ. その他【任意・自由記入】</p>				

②居宅介護支援事業者へのケアマネジメントの委託を適正に行っているか。		3	3.3		
評価の根拠	ア. ケアマネジメント業務の委託先選定時に公正・中立性を担保するために行っている具体的方法【自由記入】	・ハートページや介護保険課より毎月送られてくる居宅支援事業所の一覧表、松戸市ケア倶楽部からの情報等を基に受け入れ可能な事業所を対応可能な曜日や時間等、又、利用者や家族に合った事業所を地域包括内で協議し一つの所に偏らない様に依頼を行っている。 ・予防ケアプランチェックの際に委託先ケアマネに助言、指導を行っている。			
	イ. 居宅介護支援事業者へ委託した場合の台帳及び進行管理が行われている／いない	いる			
	ウ. 居宅介護支援事業者へ委託したケアプランの達成状況の評価の確認を行っている／いない	いる			
	エ. 委託先の安定的な確保のために講じている具体的な方策【自由記入】	予防ケアプランに対する不安を取り除く為、予防ケアプランについての研修会を実施し関係作りを行っていった。			
	オ. その他【任意・自由記入】	予防プランを持ってないという居宅介護支援事業所が多くなって来た為、安定的な確保といったものが難しくなっている。			

## 10. 松戸市指定事業

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項				
①松戸市指定事業を適切に実施しているか。	4	3.2						
評価の根拠 ア. センターが開催する介護予防教室(体操教室等)の ①参加総数(29年度1年間)及び ②最も参加者が多かった教室の日程・内容・主な参加者層・参加者数 【参加総数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】 【月報の件数を記入】	①参加総数 ( 25 )回開催( 983 )人(平均 39.32人/回) ②最多教室の状況 12月6日(水)ロコ脳体操 65歳以上 67名 高齢者	/						
イ. センターが開催する認知症予防教室の ①参加総数(29年度1年間)及び ②最も参加者が多かった教室の日程・内容・主な参加者層・参加者数 【参加総数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】 【月報の件数を記入】	①参加総数 ( 3 )回開催( 68 )人(平均 22.6人/回) ②最多教室の状況 2月7日 健康寿命の延長とは？認知症について考える わざぐりニック 院長 和座一弘氏 高齢者(概ね65歳以上)24名		/					
ウ. センターが開催する介護予防普及啓発活動の参加総数(29年度1年間)及び 日程・内容・主な参加者層・参加者数 【参加総数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】 【月報の件数を記入】 ※ア. イは含まない	参加総数 ( 3 )回開催( 71 )人 10月10日:14名、11月21日:10名、2月17日:47名 地域包括支援センターとは 介護保険制度 認知症等に関する正しい知識と理解について 高齢者が多い、若年女性、若年夫婦(子育て2世代)			/				
エ. ボランティアの育成の具体的な実施方策【自由記入】 (高齢者支援連絡会等既存のボランティア育成を記載。オレンジ協力員の支援は含まない)	・ボランティアを希望する方の施設間の電話連絡等の繋ぎや紹介を行った。 ・近隣介護施設等の行事の情報収集と提供。 ・研修会・勉強会などの情報の発信を地域包括前の掲示板で行った。				/			
オ. 申請代行業務(サービス利用の申請代行、住宅改修の助言・理由書作成等)の実施件数 (29年度1年間)【月報件数を記入】	介護保険認定申請代行: 68件 住宅改修の助言・理由書作成: 1件 その他: ( ): 件 その他: ( ): 件					/		
カ. 各種保健福祉サービス・介護サービスの普及啓発の具体的な実施方策【自由記入】	介護予防体操教室にて認知症のテストの実施。DASCのポスターの配布等を行った。						/	